

福原隆宏 学位論文審査要旨

主 査 中 村 廣 繁
副主査 武 中 篤
同 北 野 博 也

主論文

New method for in-office secondary voice prosthesis insertion under local anesthesia by reverse puncture from esophageal lumen

(食道内からの逆穿刺により外来で局所麻酔下に施行する新しい二期的ボイスプロステーゼ挿入法)

(著者：福原隆宏、藤原和典、野村憲一、三宅成智、北野博也)

平成25年 Annals of Otology, Rhinology, and Laryngology 122巻 163頁～168頁

参考論文

1. 低侵襲経口法手術でのi-scan併用高解像度鼻咽腔スコープを利用した癌切除範囲の明確化

(著者：福原隆宏、藤井太平、藤原和典、山崎愛語、片岡英幸、北野博也)

平成25年 日本気管食道科学会会報 64巻 375頁～382頁

2. ナビゲーションシステム併用内視鏡補助下経口法を施行した副咽頭間隙腫瘍の2例

(著者：福原隆宏、藤原和典、野村憲一、片岡英幸、三宅成智、竹内英二、北野博也)

平成24年 頭頸部外科 22巻 109頁～113頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、喉頭摘出され音声機能を喪失した患者の代替音声として、著者が自ら考案した食道内腔から気管側へ向かって穿刺する、今までと逆方向の穿刺方法をおこなう二次的挿入方法の有用性を検討したものである。その結果、本手法は独創性に基づく新たな手技であり、喉頭摘出をおこなった頭頸部悪性腫瘍患者22名中21名（95%）においてボイスプロステーゼを安全・簡易・短時間に施行可能であることが明らかになった。本手法はFukuhara Methodと命名され、すでに特許も取得している（特許公開番号；2012-165895）。今後のボイスプロステーゼの二次的挿入法として広く普及することが期待されており、明らかに学術水準を高めたものと認められる。